

会 議 録

1 会議名

平成 24 年度 第 4 回天水地域協議会

2 開催日時

平成 25 年 2 月 25 日(月) 午後 1 時 30 分から

3 開催場所

天水支所 3 階 会議室

4 出席者・欠席者

〈出席者〉

委員：池田彰孝、西浦文子、笠久美子、坂西英子、村上通
田中正司、富田公生、田尻信子、村上優一

事務局：本田天水支所長、平野総務振興課長、松本総務振興課長補佐、
山口総務振興課技術主任

議事関係課

【商工観光課】

仲山商工観光課長、小山商工観光課係長、和田商工観光課参事
平野商工観光課主任

【地域振興課】

小山地域振興課長、上野地域振興課審議員、石貫地域振興課係長
入江地域振興課主任

〈欠席者〉

委員：上森聖紀、山本弘憲、池田武、徳山博文、上森繁美、宮部和雄

5 会議内容(公開)

議 事

- (1) 玉名市ブランド化戦略プラン(案)について(諮問)
- (2) 玉名市観光振興計画(案)について(諮問)
- (3) 玉名市地域公共交通総合連携計画(案)について(報告)
- (4) その他

6 議事の概略・協議結果

- (1) 玉名市ブランド化戦略プラン(案)について
商工観光課より説明後、質疑応答。適当と認められる。
- (2) 玉名市観光振興計画(案)について
商工観光課より説明後、質疑応答。適当と認められる。
- (3) 玉名市地域公共交通総合連携計画(案)について
地域振興課より説明後、質疑応答。
- (4) その他

なし。

7 会議資料

(1) 会議次第

(2) 玉名市ブランド化戦略プラン(案)

(3) 玉名市ブランド化戦略プラン策定状況について

(4) 玉名市観光振興計画(案)

(5) 玉名市地域公共交通総合連携計画(案)

(6) 玉名市地域公共交通総合連携計画の検討体系

(7) 予約型乗合タクシー運行実施計画(案)

(8) 長洲町予約型乗合タクシー(きんぎょタクシー)運行の概要

8 傍聴者の数

0 人

9 非公開の理由

—

10 会議録の種類

要点記録

11 発言の内容

(事務局)

定刻となりましたので、ただ今より平成 24 年度 第 4 回天水地域協議会を始めさせていただきます。

本日は、上森聖紀委員、山本委員、上森繁美委員、徳山委員、池田委員、宮部委員の 6 名が欠席でございます。委員の半数以上の方が出席しておりますので、本会議が成立することを報告いたします。

それでは、次第に従いまして、池田会長より挨拶をお願いいたします。

(会長)

皆さん、こんにちは。まだまだ寒い日が続いておりますので、皆さんも体調には注意をされてください。

今日の議題といたしましては、その他まで含めまして4件の議題が上がっております。皆さんのご意見を伺いながら、スムーズに会議が進みますようご協力をお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして、議事録署名人指名ということで、池田会長より議事録署名人の指名をお願いいたします。

(会長)

本日の議事録の署名人でございますけれども、署名人につきましては、私の方から指名をさせていただきます。村上通さんと村上優一さんをお願いし

たいと思います。よろしく申し上げます。

(事務局)

それでは議事に入ります。会議の議長は、会長がなることになっておりますので、議事の進行を会長にお願いしたいと思います。

それでは、よろしく申し上げます。

(会長)

早速ではございますが、議事に入りたいと思います。議事の第 1 番目の玉名市ブランド化戦略について、担当の方から説明をお願いします。

(商工観光課)

皆さん、改めましてこんにちは。商工観光課長の仲山と申します。今日は、商工観光課より 4 名で来ております。議長より内容の説明をということですが、1 番目の玉名市ブランド化戦略プランについて、それから 2 番目の玉名市観光振興計画について、この 2 題について説明させていただきます。当協議会のほうからも 1 名の委員さんに計画策定に出席をいただきまして、活発な意見等をいただいているところでございます。今、案ということで、ホームページのほうにもパブリックコメントを掲載しております。内容につきましては、玉名市ブランド化戦略プランを和田参事に、そして玉名市観光振興計画を平野のほうから説明させますので、よろしくお願いいたします。

(商工観光課)

こんにちは。商工観光課の和田といいます。

皆さんには、事前に「玉名市ブランド化戦略プラン」という資料をお渡ししてあったと思います。それと併せまして、「玉名市ブランド化戦略プラン策定状況について」という資料をお配りさせていただいております。今日は、これらに添って説明をさせていただきます。

【玉名市ブランド化戦略プランについて説明】

(会長)

玉名市ブランド化戦略プランについて、内容を説明されましたけれども、この件について、皆さんのほうからご意見等がございましたらお願いします。

(委員)

このプランの中には、まだ具体的にはないと思いますが、商工会とか JA との連携や共同といったものは、ほとんど入っていないけれども、そこまでは踏み込んでいないわけですか。

(商工観光課)

当然、連携事業は入ってくると思います。今、ここに上げている分では直接は上がってきていません。

(委員)

まだ、そこまではいっていないということですね。

(商工観光課)

今おっしゃられたのは、行きたいまちづくりのオール玉名による観光まちづくりで連携事業が入ってくるのではないかと思います。

(委員)

今、行政が行っている6次産業とは、どのような形で連携していかれるのですか。

(商工観光課)

6次産業も買いたいものまちづくりの中に入ってくるものでして、物産ブランドづくりというのがあります。いわゆる玉名の名前を冠したブランド農産物・加工品づくりと書いておりますが、6次産業をこちらに入れていきたいと思っております。

(委員)

「きらりかがやけ 玉名」というのが、1,435通の応募の中から選ばれたわけでしょ。玉名は何でもそこそこみたいな説明がありました。この合言葉もそこそこというような感じがしますね。JAさんが「きらめき発信たまな」と付けておられますが、似たような感じですよ。イメージ的には変わらないような気がします。1,435通の応募があったのなら、まだいろんな候補があったように思うけど、やっぱりこれが一番よかったのかな。インパクトがちょっと弱いように感じるけど。これは県内だけでアピールするんだったら、みんなだいたい知っているからいいかもしれないですよ。でも、新たな駅が出来て新幹線が通るようになったわけだから、福岡・広島・岡山・大阪……と考えていけないと思います。だから、もう少し強いアピールの出来る言葉が1,435通の応募の中になかったのかなと思うわけです。

(会長)

このようなブランド品のプランが出来たから、今後はいろんなものとの連携になってくると思います。

(委員)

私は「人」に絞られたというのが凄く良かったと思います。最近、経験したことです。天水の薬草園によく視察にお出でになられます。それは、小岱山の薬草の会の皆さんが、いろいろと活躍されているから繋がってきていると思います。福岡とかからお見えになる方が健康づくりっていう意識があられるから来られるんだろうと思います。健康っていうのは、物産とは違う視点になりますが、これは人を引きつけるんだなと感じました。それがあから、今度は草枕温泉で足湯に入られるんですよ。小岱山薬草の会が足湯の入浴を作っていたらいいから、温泉にも人を呼ぶわけですよ。凄くいい循環をしているなと

思いました。観光っていうと物産が中心になりがちですけども、「人」っていうところにポイントを置かれたのは凄くよかったです。「人」だけじゃなくてプラス健康づくりというのがあったから、人を呼んでいるのかなと思いました。そういう風な発想も持って取り組んでいかれたらいいのかなという気がしました。

(副会長)

つい最近ですけど、温泉と薬草のまちづくりプロジェクトというのが主になって、モニターツアーをされました。皆さん健康に関心があらわれて、サプリメントとか野菜とかじゃなくて、薬草に興味のある方たちで、ツアーの内容が薬草ツアーだったから関心が高かったのだらうと思います。薬草は何でもありなんですよ。先生がおっしゃられるには、薬草は草でいいそうです。現在、薬草園には5種類くらいの薬草しかありませんが、興味を持たれて、また来たいとおっしゃっていました。いろんなところと連携していけたらいいなと思っています。

(会長)

薬草っていうのは、これから先ブームになっていきそうですね。

(副会長)

薬草は病気になってから食べるのではなくて、健康なうちから食べて、健康を維持するのだそうです。今、元気なうちにいろいろ食べて、ミネラルを摂って、元気を維持していきたいなと思います。薬草と観光とを結びつけていてもらいたいなと思います。

(会長)

薬草関係もPRをしてもらえるならいいですね。

ほかにございませつか。ないようでしたら、「玉名市ブランド化戦略プラン」について承認していただけますでしょうか。

(委員全員)

はい。

(会長)

それでは、承認いたします。

続きまして、玉名市観光振興計画について説明をお願いします。

(商工観光課)

皆さん、こんにちは。商工観光課の平野と申します。

【玉名市観光振興計画について説明】

(会長)

今、担当の方から説明がありましたが、振興計画を作成して、実行していかないといけないので大変だらうと思います。この件について、質問等ある方は

お願いします。

(委員)

資料の4ページからですけど、この計画は10年間に渡っての計画のようですが、これまで玉名市の観光振興については、どのような事業をやってこられたのか、これだけの事業をやられるなら、かなりの予算がかかってくるだろうと思います。どれくらい予算を積み上げられているのか、それに対してどれだけの効果が出てくるのか関心があるわけです。今までの計画はこうだった、今後はこういった計画を10年間でやっていかれるなら予算も絡んでくるわけですから、それだけの効果がないと我々も厳しく思えてくるのですが。

(商工観光課)

商工観光課係長をしております小山と申します。今の件につきましては、計画の中にはいろいろな項目を盛り込ませていただいておりますけれども、予算を伴った計画というわけではございません。なぜならば、10年間の中に予算規模というのも上下すると思いますので、それに盛り込むというのは出来なかったのかなど。しかしながら、予算が小さいからといってやらないのではなくて、いろんな工夫をしながら、予算がなくても出来るようなところからやっていこうということで、この計画は上げさせていただいております。なかなか予算というところの連動ができないという難しさはありますが、なるべく予算を獲得して、よりよい実行ができるように努めていきたいと考えております。

(委員)

予算をかけてはいけないというわけではありませんよね。必要な予算をかけなければ出来ないような事業はいっぱいあるわけだからですね。

先だって、玉名市長や福岡の市長など3市長が、JR九州のほうに大阪直通の新幹線を増やしてくれという要望書を出されましたね。要望書を出される以上は、この整備がちゃんと成される必要があるし、玉名市だけの観光振興じゃなくて、県は県北の観光をどのように見ているのだろうか。3市長の要望は非常にいいことなんだけど、それに付随した県の指針もあるのか、あるいは、県北である玉名・山鹿・菊地・阿蘇まで含めた一体となった観光振興は、いったいどれくらい進捗しているのか興味がありますよね。

(商工観光課)

昨年、蒲島県知事が6月に本格予算ということで、県内の各地域振興局がスクラムを組んでいろいろと事業をしようということになり、昨年9月補正で玉名・鹿本・菊地の3地域振興局の5市6町で、観光関係の交通アクセスの事業を今年度実施いたしました。平成25年度も3地域振興局の5市6町でスクラムを組んで、旅行商品の造成など取り組んでいく予定でおります。

(委員)

県の玄関口である県北に、いかに県内外からのお客さんを誘致するかとい

うことが非常に大事だと思います。3 地域振興局のまとまりと県と市がきちんとしてくれることを、我々は願っています。

(商工観光課)

玉名・山鹿・菊地に県北観光協議会がありまして、その協議会でも連携を図ってやっております。その中での話の一つですけど、裕福な方は、新たな駅に停まらずに熊本駅まで行かれているのがデータ上分かっています。熊本駅で降りて熊本城を見られた方を、いかに県北に誘致するか、それが重要な課題になってくると、県北地域で共通認識として持っております。帰りに新たな駅で降りてもらふ事業を考えております。

(委員)

大きく見たらそうですけど、やはりここには天水の方たちがそれぞれいらっしゃるので、私たちはまず天水の良いところをもう一度見直して、西浦副会長がおっしゃったように、これからは健康ブームだと思います。我々はまずこの天水をどうにかせんといかんという思いから、玉名・岱明・横島のそれぞれの良いところを持ち寄ってからじゃないと、玉名全部っていうのは考えにくいことだと思いますね。

もう一つ、前回小中一貫教育の話が出ましたが、資料の 25 ページに「小学校から高齢者まで玉名市についての理解や愛着を深める郷土学習講座の開催」と書いてあります。これは本当に大事なことで、小中一貫教育を考えるに当たって、まず「玉名学」っていうのを小中学生は9年間の教育の中で、新しく教育長が取り入れたいということですが、その為には、やはり玉名の良いところを一人一人が再確認しなければ、「玉名学」っていうのは出来ないと思います。まず玉名の良さといったときに、旧天水町なら天水町の良さを一人一人がもう一度認識して、そして、もう一度作り直すとか固め直すとか、こういう忘れていたものがあるんだよ、ほかにはないこんなに良いものがあるんだよと。今、学校教育の中で、是非皆さんに知ってもらいたくて、今日持ってきたんですけど、「熊本のこころ」っていうのが、熊本県の全小中学校に置いてあります。これを道徳の時間に勉強していて、玉名の良き人材が多く出てきます。これは、中学校版なんですけれども、金栗四三さんやうちの笠智衆ですね。特に玉名の子どもたちは、笠智衆のことをけっこう詳しいです。こういう副読本で2時間ないし3時間かけて授業で勉強していて、うちの自宅にもよく来られます。たぶん、玉名市を観光するためではなくて、笠智衆の里を見に来られていると思いますけど、年間にすると、かなりの個人のお客さん、団体のお客さんが来られます。そういう方たちにおもてなしをするんですけども、私たちだけじゃ足りないなという思いもあるし、観光に来たので何か買うものはないですかと言われても、お寺だから何も売ってないのでということで、もったいないなという気がします。まだまだ埋もれているものがあるのではないかなと。再確

認は必要かなと思います。

(会長)

天水にも、まだまだ埋もれているものがあると思います。笠委員さんの所は、笠智衆さんの里だから、多くの方が来られるでしょうね。

(委員)

そうですね。道が狭いので、大型バスで来られる団体さんには、近くの広いところにバスを置いてもらって、お寺までは歩いて来てもらっています。大変申し訳ないことなのですが仕方ないので。

(商工観光課)

草枕温泉や草枕交流館を中心とした観光施設がありますので、どのように活用していくか、観光に来られた場合バスや車が多くなっていきますので、付近の住民の方からの起こり得る苦情とかをしっかりと練った上で、一緒に考えていければと思っています。

(委員)

資料の 27 ページに温泉地活用化事業とございますけれども、白鷺荘別館の前に足湯がありますね。あそこには十分な駐車場がありませんね。軽自動車であれば 5 台止められるくらいです。学生さんもけっこうおられました。足をお湯につけながらおしゃべりをしたり、健康にも良いし、ああいうのを活性化できればいいなど。夏は暑いから庇を作ったりしてはどうかなど。雲仙の小浜には 100 メートルの足湯を謳っていますよね。ああいう形でうまく駐車場も完備して、大きくすると健康増進にもなるし、温泉地の活性化事業になるのではないのでしょうか。

(商工観光課)

あの公園は、周辺の温泉施設に訪れてもらいたいということで作っておりますので、周りの商店や飲食店、日帰りの入浴施設に車を止められて、そこから遊びに行ってもらおうというのが、基本的なコンセプトだと思っています。活用と言ってはなんですが、月に 1 回朝市というものを地元の方々が開催されております。温泉地区の中心的な憩いの場というふうな形で、活用は応援していきたいなど考えております。

(委員)

周辺の観光誘致にはちょっと遠いけど、いちごマラソンとか金栗杯とかいろいろなマラソン大会がありますよね。いちごマラソンの参加者は物凄く多かったですね。熊本は熊本城マラソンがブレイクしかかってきましたし、東京では東京マラソンがありますね。マラソン一つでも他にないマラソンだったら、人を呼び込むものにはなりますよね。既存のイベントなどに、もう一つインパクトをつけられるようなやり方も考えていいのではないかなと思います。

(会長)

玉名市を訪れたときに、観光土産品があまりないということも聞きます。伊倉に椿油がありますよね。椿油は、とても喜ばれました。ああいう物が、まだまだ表に出ていないですよ。

(委員)

天然で昔ながらの作り方ですもんね。椿油は、知る人ぞ知る商品で、東京から買いに来る人もいますよね。けっこう有名なんです。地元ではあまり知られていませんが、東京とかでは口コミで広がっているみたいですね。

(商工観光課)

首都圏というか都市圏で購入をされる方はたくさんいらっしゃいます。地元で売られているよりも、外で売られているほうが多いですね。

(副会長)

先ほどの笠委員の意見なんですけれども、天水の者が天水を知らないというのが大分あると思います。私は、天水に嫁いで来て37年になりますけれど、天水にどっぷり浸かり過ぎている感じがします。地元の人が天水を愛せないというか好きになっていらっしゃらない方が、たくさんいらっしゃるように感じます。私は、天水には良いところがたくさんあると思っています。最近、観光協議会に入ってイベントとかいろいろしているんですけど、天水の人はなかなか来られません。まずは、天水の人たちが天水のことを知ってほしいというのが、私の今の気持ちです。天水と玉名市が合併して、天水が忘れられないように、天水の住民が天水を好きになって、天水を発信していくのが一番早く観光に結びつくんじゃないかなと思っています。年間を通じていろんなイベントがあります。この草枕ウォーク等もやっておりますので、漱石が歩いてきた道を少し知ってもらって、この夏目漱石というのは、世界の人が知っている人なので大事に発信していきたいなと思っています。天水を好きになって、天水の良いところを見つけて、草枕だったり、みかんの丘から見下ろす景色はどこにも負けないくらいの財産だと思います。

(委員)

今は、忙しくて周りを見る余裕がないから、町の中でも知らないことがいっぱい出てきてますよね。

(委員)

草枕ウォークみたいなものは、年に何回かあっているんですか。

(副会長)

年に3回あっています。今までは2回だったけど、11月3日にJRウォークが入って3回行っています。5月の連休はミステリーウォークで、草枕温泉から笠寺を回って歩きますね。

(委員)

何かおもてなしが出来ないと、いつも思います。また来たい、また参加し

たいって思っただけのようなおもてなしが出来たらなって思うんですけど、それをどういう形でしているのか。やはり連携ですよ。

(副会長)

縦割り行政っていうか、このイベントの担当課はここ、このイベントあちらの課といった具合に、全然繋がりがいいような気がするわけです。玉名市全体が同じことに向かってやっていかないといけないのではと思います。最近、観光ということに携わっておりまして、天水を発信しようって頭がいっぱいになっています。そういう意識を持った市民が増えてほしいなあって思います。

(委員)

今のお話にすれば、我々は支館事業でいろいろと取り組んでいます。まちづくりにも取り組んでいるんですけど、参加をしてくださいと言っても、なかなか参加してもらえない。それが現状なんですよ。我々も支館の役員等にもお願いに行きますが、それさえもままならない状況にあります。これからの天水をどう作るかということ、議論して実行していかなければと思いつつも、なかなか進めていません。今の社会というのは、横の連携がなくなってきた、繋がり等がなくなってきたことにあると思いますけど、現状としては厳しいと感じています。自分がいざお願いしたときに、参加してもらえとは思えません。その厳しさを踏まえていかないと、理想だけで終わってしまうと思います。こちらの資料にそこそこということで、玉名市についてのアンケートが出ていると言われましたけれども、草枕というのは、私はそこそこではないと思っております。玉名市で、社会に誇れる、全国に誇れるものに「草枕」があると思います。よければ行政のほうも、そこそこではなくて「草枕」にも踏み込んで、積極的に「草枕」というものをアピールしてほしいなと思います。玉名市というのが出てきますので、そういうものがブランドとして大切ではないかと思つています。多くのものを資料の 30 数ページに渡って書いてありますけれども、理解があまり出来ません。あれもこれも同じようなものを書いてあるものだから、理解しろと言われてもなかなか多くは理解ができません。もう少し絞って、資料を作ってもらわないと、理解できないような気がします。同じような内容が何回も出てくるものだから、どうやってまとめたらいいのかと思います。ただ一つ言えるのは、玉名市において「草枕」というのは、大事な位置を占めているんじゃないかと思つています。

(委員)

今、村上委員がおっしゃったように「草枕」は大事だと認識されておられますね。昨年からは私たちが何人かで公民館に集まって、「草枕」を勉強する会というのをしていますが、呼び掛けでも参加されたのは 5 人くらいでした。草枕交流館主催で中村先生を講師に、毎回熊本まで迎えに行つて勉強会をやつておりましたが、5 人だった参加者も 4 人、3 人と減つてきて、しばらくお休み

にしようということで、現在はお休みになっています。もう少ししたら、再開しようと思っていますが、なかなか集まらないですね。今、玉名市の方から人権啓発課の課長さんが参加しておられます。あとは地元の方が 5 人くらいですね。「草枕」の本も難しいんですよ。出だしなんか本当に難しいです。最初の方は漱石さんの知識が豊富に出てくるものだから、時代背景だったり、その一つ一つを先生に聞きながら書物等の勉強会にも参加して、自分で知ること大切だと思います。今度、玉名学というのも始まりますけど、それに関しての期待も大きいですね。子どもたちが学習して、自分たちの所にはこういうものがあるんだと発信してくれればいいなと思っております。

(委員)

行政の人たちも、漱石の本を読んでいないという人はたくさんおられます。漱石をどう持っていかかというのは非常に難しい。ただ、玉名市挙げてのブランドにしなければいけないと私は思っております。小天校区にあるわけですから、住民参加の「草枕」というのをみんなが認知して、そして地域の人達が勉強して、それからみんなで発信をしていくというところに、将来的な発展があるんじゃないかと思っております。我々もそういう意識を持って、文化事業に支館でも取り組んでおります。どれだけ出来るかは分からないけれども、小学校等と連携をしながらやっていこうと思っております。

(委員)

地元を知らないということは、けっこう多いですもんね。昨年だったと思えますけど、自民党の石破幹事長が来られて「私は天水に親戚があります。」とおっしゃいました。自分の曾祖父が金森通倫さんだそうです。同志社との関係もありますからね。こんな感じで知らないことがたくさんありますよね。知っている発信ができるわけですね。

(会長)

ほかにございませんか。無いようでしたら、玉名市観光振興計画について、承認していただけますでしょうか。

(委員全員)

はい。

(会長)

続きまして、玉名市地域公共交通総合連携計画について説明をお願いします。

(地域振興課)

みなさん、こんにちは。本日、地域振興課からは 4 名でまいりました。よろしく申し上げます。

説明に入ります前に、お手元の資料の確認をお願いします。事前にお配りしておりました「玉名市地域公共交通総合連携計画」が 1 部、「玉名市地域公

公共交通総合連携計画の検討体系」が1部、それから、先ほどお配りいたしました「予約型乗合タクシー運行実施計画(案)」が1部、「長洲町予約型乗合タクシー(きんぎょタクシー)運行の概要」が1部、以上でございます。

市民・交通業者・市など、地域公共交通の関係者で構成いたします地域公共交通会議におきまして、玉名市地域公共交通総合連携計画(案)を昨年4月から数回協議を重ねまして、昨年11月に天水地域協議会の皆様に本市におきます公共交通の見直しに伴う現況及び予定についてご説明したところでございますが、先日2月19日に玉名市地域公共交通会議におきまして、この連携計画の素案が承認をされたところでございます。近年の道路交通体系の充実、また自家用車の普及に伴いまして、公共交通の利用者が年々減少傾向にあります。路線バスの補助など、公共交通の維持・確保にかかります財政負担が増えている状況から、市全体の状況を的確に把握しまして、将来に渡って市民の皆様ニーズに合った利用しやすい、また財政的にも負担の少ない効率的で効果的な交通体系の在り方を検討した結果、公共交通で実現させる便利で快適なまちづくりを基本理念としまして、5つの基本方針と10の事業内容を打ち出したところでございます。その中で、特に優先的に行う事業といたしまして、基本計画にありますバス路線の運行効率の中でいいますと、市内簡潔バス路線の乗合タクシーへの転換ということで、簡潔バス路線であります横島線・鍋線の2路線を廃止いたしまして、横島エリア・岱明エリアにおきます予約型乗合タクシーを導入するというところで、現在計画を進めているところでございます。実施計画案でございますが、担当者から説明いたしますのでよろしく申し上げます。

(地域振興課)

みなさん、こんにちは。地域振興課の入江と申します。引き続き、私の方から市内簡潔バス路線の乗合タクシーへの転換について説明・報告をさせていただきます。

【玉名市公共交通総合連携計画について説明】

(会長)

例えば、天水から横島に行きたいという場合は、利用できないわけですね。

(地域振興課)

そうですね、今回考えているのが、鍋線と横島線の廃止に替えて導入するものになりまして、基本的にはエリア内での乗り降りということでの運行システムで考えております。

(会長)

横島から岱明に行く場合も駄目ということですか。

(地域振興課)

そうですね。

(委員)

エリア外は駄目ということになると、エリア外に行きたい病院とかがあっても連れて行ってもらえないというわけですよ。

(地域振興課)

今のエリア内外の関連についてご説明させていただきます。天水地区ではみかんタクシーが走っていますけれども、路線バスを廃止したことに伴って導入したデマンドタクシーです。例えば、みかんタクシーも天水支所前まで来て、そこからバスに乗り換えて玉名市内や熊本市内に行くとかいうやり方を取っております。今回、導入します横島・鍋の方も、エリア内プラス乗り換えポイントとしてエリア外の所を設定しようと考えています。どこにするかというのは、これから詰めて考えていきたいと思っております。玉名中心部で一点乗り換えて、病院とかに行っていただけのような利便性は確保したいなと思っております。

(委員)

便利なようで、不便な感じがするけど。廃止していくわけだから、もう少しきめ細かいサービスをしていいのではないかと。例えば、横島の人が中央病院に行きたいという人がいた場合は、どういう行き方になるのですか。

(地域振興課)

横島の人が中央病院まで行きたいといった場合は、自宅からタクシーに乗って、中央病院はエリア外になりますので、乗り換えポイントは市中心部の特定箇所を設定しようと思っております。特定箇所が中央病院になれば、そのまま中央病院で降りていただければいいわけです。しかし、特定箇所が玉名駅とかに設定しますと、自宅から横島の乗合タクシーに乗って、玉名駅まで行って、玉名駅から中央病院まではバスが出ていますので、バスに乗り換える又は歩いて行く、タクシーに乗るなどの交通手段を使っていただくこととなります。普通のタクシーと違って、どこまでも好きな所に乗っていけるというわけではないので、そういう違いはあります。

(委員)

交通手段を持たない人のための利便性ですからね。

(天水支所長)

計画としては、自宅までタクシーが行くというふうに計画しているわけですか。バス停計画ではなくて自宅になるのかな。

(地域振興課)

はい。

(委員)

この乗合タクシーというのは、私は非常にいい考えだと思います。公共交通機関のバスを全廃してもらってでも、この乗合タクシーを全て使ってもらおうというのは成されないのですか。現在、バス会社に相当な金額を補助しておりますよね。バスを利用している人は少ないわけですから、その補助金等を利用してでも、利便性の良い乗合タクシーに替えるわけにはいかないのですか。今エリアとか決めてありますけど、そういうのを取り払って、玉名市全域において乗合タクシー的な公共交通機関を考えてみるべきじゃないかと思います。確かに、学生たちが遠くの学校に行くにはバス等で行くでしょうけど、それを前提して、そのほかを乗合タクシーで対応すると、更に利便性は高くなると思いますけど。

(地域振興課)

確かにバスに対しての補助金というのはかなりの高額で、今年度も7千万を超えるような見込みを持っております。ただ、このデマンドタクシーはあくまでもバスとの共存という形で考えておりまして、今の玉名市にあるバス路線が、玉名市内だけで関係しているものが、今回の見直し対象の横島線・鍋線です。ほかのバス路線は玉名市外の町や市を結ぶ広域路線になりますので、簡単にはバス路線を全部廃止するというのは難しくなります。今回もデマンドタクシーを導入することで、バスに乗り換えていただいてバスの利用も増やしていこうと考えておりますし、交通空白地帯と言われておりますバス停から遠いところにもデマンドタクシーを導入することで、公共交通を使っただけエリアを増やすというものです。いろんな目的の中で、デマンドタクシーの導入も考えていこうと思っています。

(委員)

先ほども言いましたように、広域に渡っての路線バスは当然使っていけないといけません。でも、共存共栄ということを言われますけれども、第一に乗る人の利便性を考えるべきだと思います。撤廃できるところは撤廃して、広域でバスが走っているところは、当然バスを利用するというのは必要だと思います。ほかにも廃止できる場所はあると思います。玉名駅とか限定したところに、広域で乗る人たちの乗る場所というのを設定して、そのほかを乗合タクシー等で利用する方が、タクシー会社の雇用も増えますし、市の活性化にもなると思います。バス会社に出している補助金を少しでも減らして利便性を持っていくのも大事ではないかと思います。

(地域振興課)

今回見直し対象に入っていない路線バスについても、利用が少ない時間帯がありますので、そういったところを間引きするとか、やり方は違うかもしれませんが、効率化を図っていきながら、より利用していただけるようなバス路

線を再編することも、計画の中に盛り込んでいますので、その辺も第 2 段、第 3 段の中で考えていきたいと思っております。

(委員)

ここに新規路線のバス運用というのが示してありますけれども、新規に新しく作ってもやらなければいけないのかという問題もあると思います。利用者の少ない時間帯をどうするかというのも考える必要があると思います。要するにバスに出す補助金を削減して、市内のタクシー等を利用することが、市の活性化・タクシー会社の活性化にも繋がると考えています。

(会長)

乗合タクシーの業者との話し合いはついているんですか。

(地域振興課)

全て今からになります。

(委員)

交通弱者に対して、どこまで行政が携われるかというのもあるでしょうね。村上委員がおっしゃるように、きめ細かく対応するのも大事でしょうけど、どこかで線を引かないときりはないですね。交通弱者というのは、行きたいけれども頼む人もいないし、行けないという人たちですから。ほとんどが病院行きかなという気もしていますが。

(会長)

バスに対しての補助金は 7 千万ですか。

(地域振興課)

平成 24 年度の予定としましては、7 千 300 万ほどを予想しております。横島線と鍋線の 2 路線で約 2 千万を負担しているところです。既存の路線バスに替わるものとしての乗合タクシーということで、どうしてもタクシーという名称が付きますので、家から目的地まで時間通りにきちんと送ってくれるという印象を与えますけれども、あくまでも路線バスの替わりという基本的な考えをお持ちいただきたいと思います。例えば玉名市におきますならば、玉名市外出支援サービスということで、60 歳以上の単身の方・高齢者のみの世帯の方とか、こういった方々を対象とした医療機関などへの送迎バスも既存としてあります。玉名市福祉バスは玉名市内の温泉施設等への送迎ということで、こちらは無料で走っております。こういったバス等も走ってはおりますけれども、まずは路線を走るバスを、今回は乗合タクシーに替えたということです。ただ一番良いところは空白地帯までエリアに入っておりますので、バス路線の所まで出て行ってバスに乗らないといけなかった方も利用しやすくなるということで、利便性も向上するのではないかという思いはあります。基本的に申しますと、まずは基本計画を作りましたので、今後 5 カ年の間で見直すところはありますけれども、例えば玉名市内を走っておりますバス路線につきましても、どこのバス停

で乗ればどこまで行けるのかというのが、複雑化している現状がございます。ゆくゆくは市内の循環バスにすればどうだろうかとかというのも一つの案でございまして、分かりやすい路線バスというのが利用者の方への方法でもあるのかなという考えもございます。5 カ年の間で基本計画に添って、実施計画を元に進めていきたいと思っております、手始めにこの2地区のエリアの中の乗合タクシーと計画したところでございます。業者につきましては、今後決まったところで細かい所までの協議になっていくかと思っております。

(委員)

自宅からバス停までが遠いから、ついつい乗らないというお年寄りが多いと思います。

(委員)

私は3年くらい前に、バスを小型化したほうがいいんじゃないかと意見を言ったことがあるけれども、それでも大きいバスを走らせている。なかなか小さなバスに替わらないのは何故なんですか。

(地域振興課)

やはり減価償却とか会社の経営上のことがあるのかもしれないですけど、そのあたりは事業所さんに尋ねないと分からないですね。

(委員)

そういうところも確認をして、どういう状況で市が負担をしているのか、ただ赤字だからということではですね。

(地域振興課)

県内でも人吉ではハイエースの13人乗りを産交のカラーに染めて運行はされています。随時、産交バスも小型化を図っていらっしゃるとは聞いております。ただ、一斉に買換えというのはお金のかかることなので難しいですし、経費のほとんどが人件費を占めるというのもありまして、必ずしも小型化が経費の削減に直結するというのも言い切れない部分もあるのかなと思っております。

(委員)

それでも誰も乗っていなかったら無駄が生じますもんね。

(委員)

私の住んでいる地区は小天東ですけども、みなさんバス停まで出てくるのが大変とおっしゃいます。今みかんタクシーは、従来のバス停まで出てくるということになっていますけれども、将来的には、横島・鍋エリアのように自宅まで来てもらえるようになるんですか。ほかの地区で自宅までが出来るのだったら、みかんタクシーもしてほしいなと思っております。

(会長)

ほかにございませんか。無いようでしたら、議事の方が全て終了しましたので事務局の方にお返しいたします。

(事務局)

長時間に渡りまして、審議していただきありがとうございました。

これをもちまして、平成 24 年度 第 4 回天水地域協議会を閉会いたします。
ありがとうございました。

13 問い合わせ先

玉名市天水支所 総務振興課 TEL0968-82-3111